

育てる楽しさ、味わう喜び

兵庫みらいの

野菜づくり

Basic Vegetables



根菜類・キク科

ゴボウ

◆VARIETY

ゴボウを食べる民族は世界でも日本人くらいで、品種改良も進んでいません。おもな品種には、滝野川大長があります。短根種として、てがるゴボウやサラダむすめなどがあります。若い根

と葉柄を楽しむ葉ゴボウ(写真)では越前白茎、早生白茎などが利用されます。特殊な形では、しんに空洞がある大浦、堀川など。

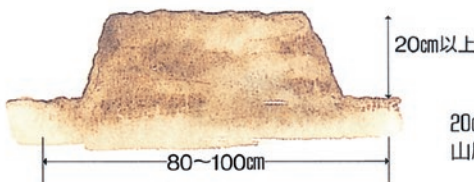


畑の準備

スコップで30~50cmくらい深く耕す。元肥は深くまで全層に混ぜる

セルカ
120g/m²

元肥
果菜ゴールデン有機(N・P・K=10・6・10)
150g/m²
マルチサポート1号40g/m²

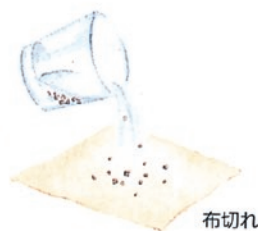


畝づくり

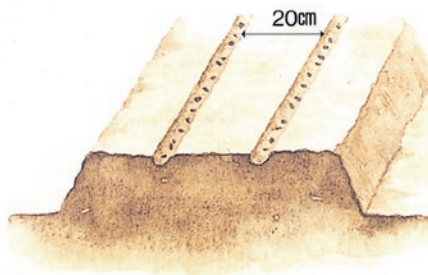
20cm以上の高畝にする。火山灰土では、低畝でよい

種の準備

種は1昼夜水につけ(2、3回水を取り替える)、布の上で水切りして芽が出ないうちにまく



布切れ



種まき

まき溝を浅くつけ、1cm程度の間隔に条まきし、薄く覆土する。葉ゴボウのばあい、厚まきにして、茎を細めに育てる

夏まき 秋まき 早春まき 葉ゴボウ

	夏まき	秋まき	早春まき	葉ゴボウ
1月				
2月			○	
3月		■	○	■
4月		■	○	■
5月			■	
6月			■	
7月	○		■	
8月	○	○		
9月		○		
10月		○	○	
11月	■			
12月				

○じかまき ■収穫

営農指導員からの失敗しないコツ

- ・播種後、生育初期は黒寒冷紗を掛けるなど乾燥防止に努めてください。
- ・多湿に弱いので、排水をよくして一度作った畑では連作を嫌います。
- ・肥料袋等で作土確保するのも手です。

◆PROFILE

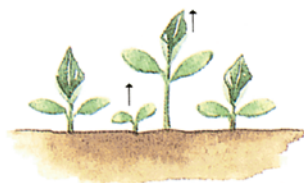
原産地はヨーロッパからアジア。春まきすると2年生、秋まきすると3年生になります。生育適温は20～25℃で、茎葉は寒さに弱く、3℃で枯死しますが、根の耐寒性は強く、茎葉は枯れ

ても根は生存して翌春に芽を出します。種子は好光性なので、種をまく前に水につけるとともに、明るいところに置きます。

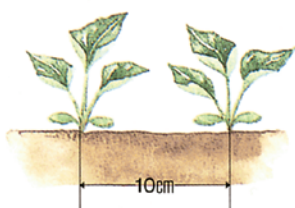
根の太さが3mm以上になってから低温にあい、12.5時間以上

の日長になるととう立ちします。耕土が深く、排水のよい砂壤土や火山灰土でよいものができます。粘土質では根の伸びが悪く、外観が悪くなりますが、かわりに肉質のよいものができます。

間引き



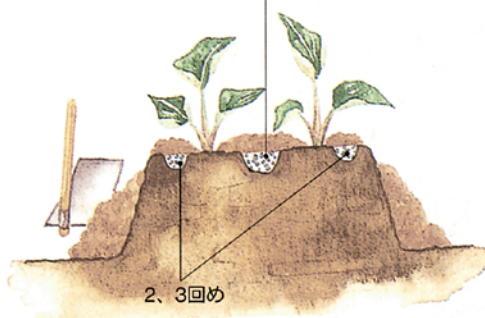
本葉1枚のころ、伸びすぎや出遅れの苗を間引く



順次繰り返し、本葉5、6枚になるまでに株間10cm程度にする

追肥

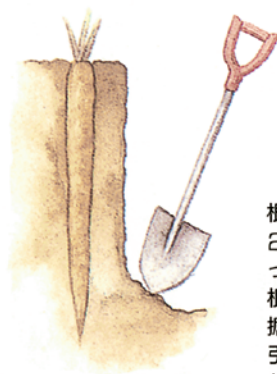
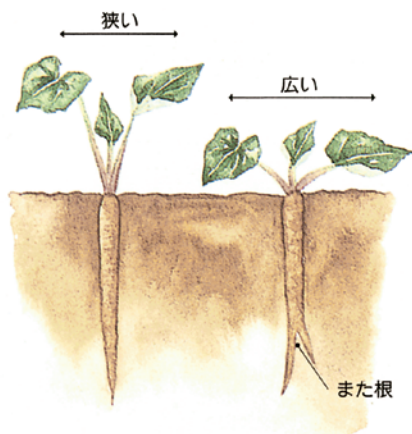
1回目 野菜専用化成 (15・15・10)
30g/m²/1回当たり



どか肥は肥やけをおこしやすいので、種まき後30～40日間隔で2、3回に分けて与える。同時に土寄せを兼ねて覆土しておく

収穫

葉の開く角度が広いばあい、また根の可能性が大きい



根の直径が1～2cmくらいになったら収穫する。根の側面を深く掘り下げてから引き抜くと、折れない

栽培三知識

クロタラリア(タスキマメ類)は3種類の線虫に、またマリーゴールドは2種類の線虫の密度を下げる効果があります。キタネグサレセンチュウについては、前作にラッカセイ、サトイモ、マリーゴールドを植えると効果があります。

次に、ラッカセイは4種類の線虫の密度を下げる効果があります。

前作に栽培する作物のなかでも、サツマイモはキタネグサレセンチュウのほか、5種類の線虫の土中の密度を下げる効果があります。

これら線虫を防ぐには、栽培する前年にサツマイモ、ラッカセイ、マリーゴールドなどを植えると、線虫の発生が低下して、ゴボウの被害を減らすことができます。

ゴボウはキタネグサレセンチュウなどの害虫によって、根の表面に黒褐色、しみ状の小さい斑点ができます。初期の芽では赤褐色の斑点ができると、15cmくらいの短根になりやすくなります。

「ゴボウと」線虫



農業に関するご相談・お問い合わせは、
JA兵庫みらい 営農窓口まで。

TEL.0790-47-1282

8:45～17:15(土・日・祝日を除く)

加西営農生活センター	TEL.0790-47-1286
グリーンかさい	TEL.0790-47-1286
三木営農生活センター	TEL.0794-87-3012
グリーンみき	TEL.0794-83-5638
小野営農生活センター	TEL.0794-63-6905
グリーンおの	TEL.0794-63-7775